

## 私のおすすめ本

酒巻俊之 教授

(会社法)

『私は私になっていく (改訂新版)』 クリスティーン・ブライデン著

クリエイツかもがわ 2012年

私が著者のクリスティーン・ブライデン(Christine Bryden)さんを知ったのは、Eテレのハートネット TV(認知症診断後の「希望」とは～クリスティーン・ブライデンとの対話(2023.11.14 初回放送))という番組を見た時である。著者は、オーストラリア政府の要職につき多忙な日々を送っていた1995年に、46歳で認知症と診断された。当初の診断では、まもなく施設に入り、そして死んでいくというものであった。

まず私がびっくりしたのは認知症になった年齢であった。私の両親は90歳越えであるが認知症の症状はない。私と妻も還暦近いが自覚はない。私の義母は癌や脳腫瘍などの病気を経て、85歳くらいで認知症のような症状を発症した後、すぐに病院で亡くなっている。46歳は皆さんのご両親や私の教え子にも普通にいる若年齢である。ハートネット TV で彼女とともに番組に出演した認知症の日本人仲間には、彼女の発症年齢よりさらに若くして発症した人も多くいる。

彼女は認知症と診断されてからの自らのことを記録することにした。彼女は、前夫との娘や認知症の告知後に再婚した現在の夫に支えられて、施設に入ることもなく、現在も家族と暮らしており、この本の発刊以降も彼女の記録の書籍化は続いている。

彼女は記憶が抜けることを前提にスマホ・PCへの記録を怠らないとともに、一日のスケジュール管理等を夫等に頼ることである程度普通の生活ができているようである。映画「メモメント」の主人公のように体に記憶を刻むなんて悲惨なことはしない。

認知症にどのような人が罹患するのかわかりにくい。認知症専門医や現役で多忙な生活を送っていた人達がある日突然発症しているようである。認知症患者の行方不明者も、ここ10年くらいで倍増し、年間2万人にせまる状況である。この本は認知症患者・医療従事者等に役立つとともに、皆さんの将来設計や家族介護計画に役立つこともあるだろう。

### ◎おすすめポイント

認知症患者の思考を知ることで、自身や家族の認知症的症状に備えることができます。

## 『大泉エッセイ 僕が綴った16年』 大泉洋著

角川文庫 2015年

「大泉洋」さんは、大学時代に北海道のローカルTVで、乳首の部分だけくり抜かれた全身タイツ姿で風俗レポートをさせられたことにはじまり、その後北海道ローカルTVの「水曜どうでしょう」でいじられキャラとして北海道民に広く愛されるようになり、さらに「1×8いこうよ!」「おにぎりあたためますか」等の彼を中心とする北海道ローカル番組がことごとく長寿番組になるとともに、全国的に繰り返し再放送されるようになったことで、全国にファンが広がっているタレントである。また「しあわせのパン」「青天の霹靂」「こんにちは、母さん」「ディア・ファミリー」などの映画、大河ドラマ「真田丸」の真田信之役、「鎌倉殿の13人」の源頼朝役などの渋い演技も好評で、さらにNHK紅白歌合戦で3年連続司会を務めたり、その翌年には歌手として出場したりもしている。さらに歌とコラボしたスープレカーをプロデュースするなど実に多才な人である。また、大学時代に結成した彼の所属する劇団「TEAM NACS」の他のメンバーも北海道在住にこだわるリーダー以外は、全国区の俳優となっており、様々な映画・バラエティで見かけるようになっている。

この文庫本版は前書の18年分のエッセイを16年に縮めた分、結婚や家族の話が加筆され、また、カバーイラストを担当したあだち充との対談が加わっている。

私は仕事以外の本を電子版で済ます時期があった。しかし、近時に本屋や本学図書館の見計らい図書の展示会にいった際に、本の装丁・帯の美しさ・芸術性におどろかされた。そこで、かつてのレコードのジャケット買いと同様に、本の装丁買いが始まった。このエッセイも「水曜どうでしょう」の再放送を見て、イラストが「タッチ」等で知られる漫画家「あだち充」さんであった為に近時に購入したものである。彼の「水曜どうでしょう」仲間の本は読んだだけである。なお、装丁が良い本は、図書館でもカバーを剥がさないで所蔵することを望む。

### ◎おすすめポイント

カバーイラストが漫画家あだち充です。大泉・あだちファンにはたまりません。

## 『普通のサラリーマン、ラジオパーソナリティーになる』 佐久間宜行著

扶桑社 2021年

「佐久間宜行」さんは、テレビ東京のプロデューサー時代に子供番組の「ピラメキーン」

や「ウレロ☆シリーズ」、テレビ東京退社後も続くバラエティ番組「ゴットタン」等を手掛け、まだそこまで売れていなかった劇団ひとり、おぎやはぎ、東京03とともに番組を作ってきており、現在も「あちこちオードリー」等の彼のプロデュースした番組では良く画面に登場する人物である。まだテレビ東京のサラリーマン時代に、オールナイトニッポン0(ZERO)のパーソナリティーになり、その後独立、現在もパーソナリティーを続けるとともに、その観客を入れてのショーの開催、YouTubeでの「NOBROCK TV」配信なども積極的に行っている。

もっとも先の説明は彼が度々自身で様々な番組等において言っていることであり、私が彼を知り、ファンになったのは、オールナイトニッポン0を聞くようになってからである。

本書の後に次々発刊される本はビジネス関係の著書や対談が多く、日本大学理事長の林真理子さんとの対談記事や先日の日大での理事長・学長講演等で日大との縁も深い。この講演は就職を控えた皆さんの就活にもとても役に立つものであったが、私が彼のファンなのは、彼が大学を留年するほど観劇を行った過去を後悔せず、多忙な現在でも映画・グルメ・観劇などの趣味の時間がかかさないと、妻や娘にメロメロな所である。私も徹夜で原稿を仕上げたり、授業帰りのレイトショーを狙ったりして映画館での映画鑑賞をかかさないとしているが、それでもそんなに多くの映画をみることはできない。彼の推薦映画は外さない。私は若い頃から仕事で寝る時間がなくても、無理して映画・行楽・グルメに家族、現在では妻と行きまくるが、佐久間さんが同様の生き方をして、嬉しそうに話しているのが、自分だけではないと感じて嬉しくてたまらない。本書はそんな彼の初期作品である。

#### ◎おすすめポイント

佐久間宜行さんの人生・家族関係・仕事・映画・グルメの話はとても楽しいです。

#### 筆者自己紹介

酒巻 俊之（さかまき としゆき）

日本大学経済学部教授「会社法」担当。書籍・写真・音楽・映像等の媒体が好きであるが、大学教員一族であり、自分の想像外の作品により魅力を感じる性格の為、多くの学生や同僚に囲まれる刺激的な本職は天職と感じている。